



当院の災害医療活動と今後について

救急診療部主任部長 打越 学

当院は災害拠点病院であり、災害派遣医療チーム (DMAT) を有しています。

DMATは、阪神淡路大震災での避けられた災害死の教訓から発足し、今年で20年になります。近年では、災害急性期の活動のみならず、災害亜急性期までの長期的な活動に対応しています。令和6年能登半島地震では、発災直後からDMATを含む多くの職員が病院に参集し、災害医療対応を行いました。1月2日から、要請に応じて、DMAT派遣や患者受け入れを行いました。(以下、図参照)

災害はいつ起こるか分かりません。医療機関においては、災害発生時を想定してBCP (業務継続計画) を策定することが推奨されています。当院では、災害医療作業部会を中心に訓練の企画やBCPの見直しを進めています。

災害時に対応できる人材の育成も課題であり、近年では都道府県単位でのDMATの養

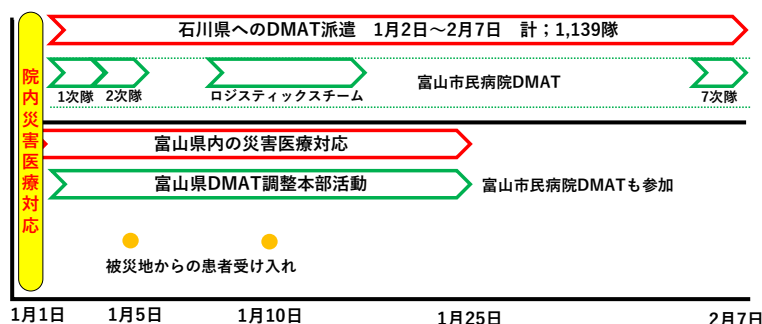
成が実施されています。富山県でも今後の研修開催について検討を行っており、災害対応能力の向上ができるように働きかけています。

今年度、災害時のツールである広域災害・救急医療情報システム (EMIS) が改定されました。災害発生時に優先的・効果的な支援に繋げるために、医療機関においては平時から施設情報の入力をお願いいたします。

災害時は、常日頃から事前準備を行っていないと対応は困難です。災害拠点病院である当院は、地域医療の中核として災害時においても地域住民の健康を守るよう努めてまいります。



令和6年能登半島地震における災害医療対応



6月 地域連携の会開催報告

6月5日(木)にANAクラウンプラザホテル富山において、院外の先生方67名、院内から44名が参加して地域連携の会が盛大に開催されました。

県および市医師会長よりご挨拶をいただいた後、外科部長宮下医師の司会のもと、『地域で“選ばれる病院”を目指して～ロボット手術で広がる可能性～』と題して、本年8月より当院で本格的に導入されるロボット支援手術の話題について講演がありました。宮下医師からのopening remarksの後、当院で今後ロボット手術にかかわる泌尿器科、呼吸器外科、産婦人科、外科より、各科のロボット手術の展望について話がありました。やはり、ロボット支援手術はそれまでの腹腔鏡下手術と比してもより低侵襲で、精度の高い手術が可能となることが実感されました。

続いて懇親会が開催されました。かかりつけの先生方と当院医師が和気あいあいとした雰囲気、話に花が咲いている様子が会場のあちこちに見られ、顔の見える関係作りにおいて貴重な機会をいただきました。

講演

「地域で“選ばれる病院”を目指して

～ロボット手術で広がる可能性～

富山市民病院外科部長 宮下 知治

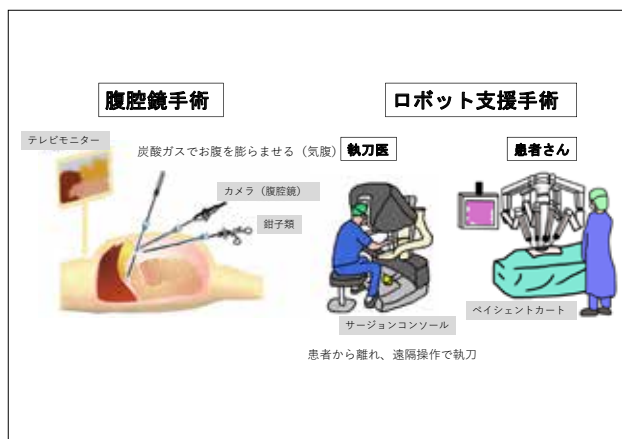
当院では、地域の皆様に信頼され、選ばれる病院を目指し、最先端医療の導入に取り組んでいます。その一環として安全安心で身体に優しい低侵襲手術を実現できる手術支援ロボットの導入を予定しています。ロボット手術は従来の腹腔鏡手術と比較して、より精密な操作が可能であり、患者さんの身

体的負担軽減や早期回復に大きく貢献しています。特に、消化器外科・泌尿器科・呼吸器外科・婦人科などの領域で高い治療効果が期待されており、手術精度の向上と合併症リスクの低減が報告されています。また、若手医師の教育にも活用されており、地域全体の医療レベル向上にも寄与しています。

当院では導入が決定して以降、医師をはじめ、看護師、臨床工学技士などによるロボットチームを準備段階から立ち上げ、シミュレーションや他施設の見学などを行い、万全の体制でロボット手術を開始する予定です。

今後も、かかりつけ医の先生方との連携を大切にしながら、紹介・逆紹介体制の強化を図り、地域医療の中核として機能してまいります。またロボット手術を通じて、より多くの患者さんに安全で質の高い医療を提供できるよう、努力を続けてまいります。本講演では担当する4診療科からロボット手術導入の展望とロードマップを概説いたしました。

(演者抄録、文責 大田 聡)



研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会

※ 8月の地域連携症例検討会の開催はありません。

次の開催は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

予告

日 時：9月9日(火) 19:00～20:00 (ハイブリッド開催)

場 所：当院3階 講堂

内 容：①症例検討 1例(担当) 形成外科

②ミニレクチャー 1題(担当) 血液内科



2. 第1回 富山市民病院主催 糖尿病療養指導士のための研修会

日 時：令和7年8月30日(土) 15:00～16:50

場 所：当院3階 講堂

テーマ：糖尿病とフットケア～足からみつめなおしてみよう糖尿病療養指導～

定 員：50人

参加費：無料

3. ダイアベティス研究会(旧：糖尿病研究会)

日 時：令和7年9月18日(木) 17:30～18:45

場 所：当院3階 講堂

テーマ：BSスケールと定期インスリン(インスリン治療の基本)

講 師：内科医師 浅野 彰子

ふれあい地域医療センターからの お知らせ

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

お盆期間中の8月16日(土)のふれあい地域医療センターにおける電話予約の業務は、誠に勝手ではございますが、お休みさせていただきますので、よろしくお願いいたします。



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

リハビリテーション科作業療法士の紹介

当院リハビリテーション科には、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が在籍しており、作業療法士は現在9名です。「作業療法とは何をするのか?」と理学療法との違いが分かりにくい方もいらっしゃるかもしれません。作業療法における「作業」とは、日常生活に関わるすべての活動を指し、食事・更衣・トイレ動作から家事、趣味、仕事、地域活動まで多岐にわたります。当科では脳卒中や整形外科疾患、内部障害、認知症など、さまざまな疾患によって日常生活に支障をきたした患者さんに対し「その人らしい生活」の再構築を目指した支援を行っています。自助具や福祉用具の選定と操作練習も重要な支援の一環であり、患者さんの生活環境に合わせた実用的な提案を行っています。また、身体機能の改善にとどまらず、患者さんが自らの目標に向かって意欲を持ち続けられるよう心のケアにも力を入れており、



対話や活動を通じて笑顔を引き出し、達成感を感じられる関わりを大切にしています。

今後もチーム医療の一翼を担い多職種との連携を深め、地域医療に貢献していきたいと考えています。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

8月

科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	野 村 智	8日、12日
	水 野	13日、22日
	進 藤	14日、15日
	向 井	4日
	寺 田	27日
	高 嶋	20日、22日
	倉 田	5日
	佐 藤 百	29日
	宮 本	15日
外 科	佐々木	26日、27日
	竹 中	29日
	清 水	4日、18日
泌 尿 器 科	高 瀬	20日、21日、22日
整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	重 本	8日、15日、22日
	岡 本	22日、25日

科 名	医 師 名	不 在 日
産 婦 人 科	長谷川 徹	28日、29日
精 神 科	長谷川 雄	27日、29日
麻 酔 科	高 木	5日
形 成 外 科	宮 下 松	7日、8日、18日、19日、20日、21日、22日
皮 膚 科	大 石	8日、12日、13日
	池 田	15日
脳 神 経 外 科	山 野	1日
呼吸器・血管外科	湖 東	22日
小 児 科	和 田 拓	27日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	児 島	6日、7日
歯 科 口 腔 外 科	朽 名	12日、13日、14日、15日
緩 和 ケ ア 内 科	中 山	4日、5日、6日
	服 部	20日、21日、22日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

例年にも増して厳しい暑さが続く中、長男の中学生最後の野球大会が開催されました。

長男は中学から野球を始めました。当初は、練習についていけるか心配していましたが、仲間の温かいサポートと励ましにより楽しく野球を続けることができました。出場機会は少なかったですが、最後にアルペンスタジアムで公式戦初ヒットを打った時は、これまでの練習や努力の積み重ねが実を結んだ瞬間であり、大変感慨深いものがありました。

高校でも野球を続けると意気込んでおり、硬式の練習を始めるようです。大好きな野球を続けてほしいと思う反面、しばらくの間はその情熱を少しだけ勉強に向けてほしいものです。

放射線技術科 嶋尻 悟志



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

